

社会活動

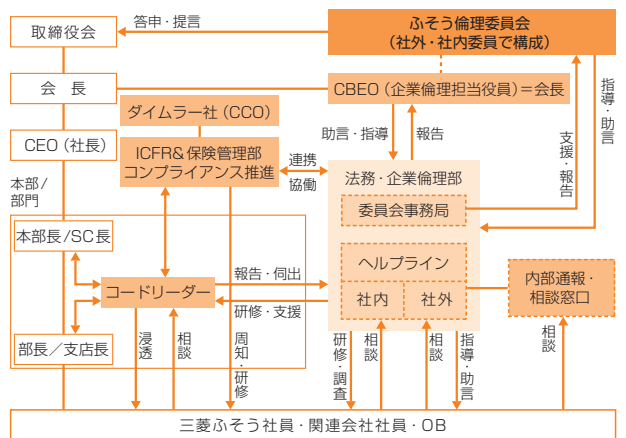
Social Responsibility

企業倫理

企業倫理の考え方

三菱ふそうでは経営陣をはじめ社員一人ひとりが、倫理感を持ち業務に邁進することを最優先課題と位置付け、安全思想の風化防止も含め、毎年、社員全員がコンプライアンスに関する誓約書に署名し、提出しております。また、三菱ふそうは企業倫理の徹底と『お客様にとってNo.1 (信頼度No.1企業へ)』を目指し、新たな企業体質の確立を進めています。

企業倫理管理体制（組織）2008年6月現在



企業倫理の取り組み

三菱ふそうは、ダイムラー・トラック部門の一員として、全世界のダイムラー関連企業に適用されているダイムラー社の『インテグリティコード (倫理規定)』とこの倫理規定を具体的に解説した『コンプライアンスに関するポリシーとガイドライン』に沿って企業活動を行っています。当社の全社員はこれらのダイムラー規定とともに、これらをベースにさらに分かり易く解説した『ダイムラー倫理規定の指針』(2008年7月改訂)を持っており、日常業務を遂行する上での諸問題を解決するための拠り所として活用しています。

また、当社では社員へのコンプライアンス意識の浸透、定着のための諸施策を推進していますが、具体的には以下の取り組みなどを三菱ふそうグループ全体で行っています。



インテグリティコード (ダイムラー社)



コンプライアンスに関するポリシーとガイドライン (ダイムラー社)



ダイムラー倫理規定の指針 (当社)



(1) コードリーダー制

職場ごとにコンプライアンスの推進役となるコードリーダーを2年の任期で選任しています（現在、本社部門ではサブ・コードリーダーを含め、79名が選任されている）。三菱ふそう本体に統合した地域販売部門（旧連結決算対象販売会社）にもこの制度を2008年1月より導入し、全国各地域から25名が新たに選任されました。

このコードリーダーの主な任務は、社として実施するコンプライアンス施策が社員一人ひとりにまで浸透するように、各職場で展開活動の推進役となること、および職場の社員からのコンプライアンスに関する疑問・意見等の収集役となることです。

このようにコードリーダーは各職場における企業倫理推進のため、中心的な役割を担っております。

また、コードリーダーとしての意識やスキルアップを図るため、新任時、および選任から一年経過時点で研修会を開催し、職場での色々な問題に対する解決法などを学んでいます。



コードリーダー研修会

(2) ふそう倫理委員会

社外から弁護士などの有識者に参加いただき、委員構成などを変更した倫理委員会が新たに2005年1月に発足しました。現在は社外委員3名、社内委員2名の5名体制で3ヶ月に一度、定例委員会を開催しています（必要に応じ、臨時開催）。

委員会では三菱ふそうが行っている品質改善への取り組み状況や企業倫理に関する諸施策の実施状況を報告し、都度、委員より社会の視点からご意見やご指導をいただいています。この委員会は取締役会の諮問機関として位置付けられ、取締役会への答申・提言を行っています。

(3) 社員コンプライアンス教育・研修

企業倫理、コンプライアンス担当部門の主催により、全管理職を対象にした法令研修やコンプライアンス研修会を毎年実施しています。

2007年は、本社部門の全管理職に対し外部から講師を招

き、労務管理と職場コミュニケーションについての研修会を実施、地域販売部門に対しては、外部講師によるコンプライアンス講演やダイムラーの規定についての研修会、および下請法に関する法令研修会を開催しました。

また、ダイムラーのコンプライアンス・トレーニング・プログラムに則った研修も行っています。

各職場への研修内容の展開は、社員一人ひとりにまで浸透するように、研修を受けた管理職が配下社員教育を実施しています。

(4) 安全への誓いの日

三菱ふそうは、1月10日及び10月19日を『安全への誓いの日』としています。両日は、2002年に横浜および山口で起きた当社製トラックの事故で亡くなられた方々のご命日にあたります。これらの日には、始業時に全社員が黙祷を行い、故人のご冥福をお祈りするとともに、自戒の念を込めて、この日を決して忘れることなく、安全とすべての品質を常に最優先させる誓いを再認識しています。



安全への誓いの日の黙祷（2008年1月）

(5) 社員相談・通報窓口など

社内で日常起きていることで、社員が少しでもおかしいと感じたら気軽に相談出来る窓口として社内には『社員相談室』を設置し、社外相談窓口としては社外弁護士へ委嘱し『社外ヘルプライン』を開設しています。これらは公益通報者保護法における内部通報、または事前相談の窓口ともなっています。連絡先は『ダイムラー倫理規定の指針』冊子やイントラネットなどで、住所、および専用の電話番号、FAX番号、メールアドレスなどが全社員に周知されています。

また、相談・通報者の範囲は、社員（退職者、パート社員、派遣社員などを含む）、関連会社・取引先社員、およびそれらの家族です。

これとは別に、各部門に入った不正などに関する情報は、社内にいるコンプライアンス・マネージャーが全社の統一窓口として受け付け、会社幹部・関連部門への報告や現場に対する対応指示を行っています。

品質向上

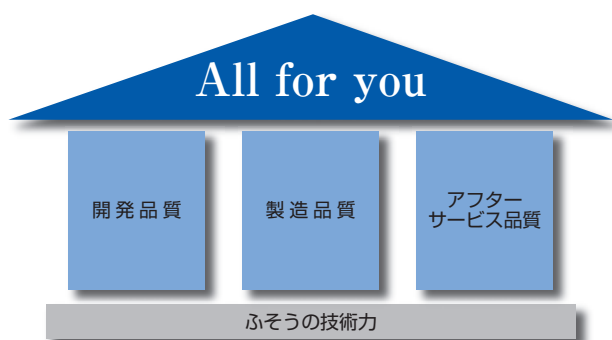
信頼度 No. 1 企業へ

お客様に満足していただく製品やサービスを向上することが「信頼度 No. 1 企業へ」という方針を実現できると確信し、私たちは「品質重視」というキーワードを中心に活動しています。

「品質重視」は、すべての事業活動、ビジネスプロセスにおいて品質を常に最優先させることを求めています。これを実行するためには品質管理プロセスを日々、改善していく必要があります。

品質管理プロセスは大きく次の3つに分けることができます。

私たちは、それぞれのプロセスの改善をするにあたり、組織の見直しから着手しました。それでは、その内容について説明します。



開発品質～作りやすい・整備しやすい車の開発

まず、開発段階での品質管理プロセスです。お客様の要望や、社会の要望に答える製品の開発をする段階で品質を確保します。

三菱ふそうでは、従来から、開発部門(設計・実験)と生産部門においては、連携を計りながら新機種開発プロジェクトを推進して参りましたが、このたび、開発段階からの品質作りこみを確実にし、更なる品質向上を図るために、生産準備・生産・品質保証の一気通貫なフローを実現する体制をとることにしました。これにより、組立性や車の整備性の検討や品質改善、安定した生産が出来るよう万全な準備の改善を更に推進することを可能にしました。

また、私たちは、FUSOの開発プロセス「FPDプロセス」を構築しています。このプロセスを用いて、あらゆる新機種開発において、漏れのない開発および量産準備を実行する事を可能としています。

製造品質～お客様に信頼される製造ラインづくり

次に、製品の製造段階での品質管理プロセスです。

製造工場では部品の受け入れから、機械加工、組立、完成検査、輸送とさまざまな工程に大勢の社員が働いていますが、すべてのプロセスにおいて品質向上活動を行っています。三菱ふそうが目指したのは「お客様に信頼される製造ライン」づくりです。

その中でまず我々が取り組んでいる事は、品質に対する全ての責任を製造ライン内で完結させるための体制づくりです。

ラインにおける品質責任を明確にし、品質保証のレベルアップと、作業員への品質意識の向上を徹底して取り組んでいます。

代表的な例として、ロット保証の強化、部品のセット払出し、生産ラインのクリーン化が挙げられます。

◇ロット保証の強化として、ロット内における変化点を管理することにより、ロット保証精度を強化いたします。これにより不良品を後工程に流出させない体制を確立し、また万が一流出した場合でも迅速な対応がとれる体制にしました。

◇部品のセット払出しとして、製品1台分ずつ部品をセットして組立ラインに供給することにより、組立作業員が部品を選定する作業を排除し、誤組立を発生させる要因を減少させます。これにより作業員は組立作業に専念出来るようになり、組立作業における品質の造り込みを向上させることが出来ました。

◇生産ラインのクリーン化を推進することにより、今まで目に見えなかった隠れた品質不具合要因の排除を行い、安定した作業による安定した品質を継続出来るよう、日々取り組んでいます。

各自の持分・作業内容を明確にし、それぞれのプロセスにおいて品質保証責任を受け持つことにより、品質を各々のプロセスにおいて保証いたします。

今後更なる品質向上を目指し、お客様が満足できる車両を提供できるよう、品質改善活動に取り組んでまいります。

アフターサービス品質の強化

3番目は、アフターサービスの品質管理プロセスです。三菱ふそうでは、販売後の車両品質の向上を目的として、1秒でも早くお客様のクレームに対するアクションを起こし、より質の高いサービスを提供できる体制作りに取り組んでいます。

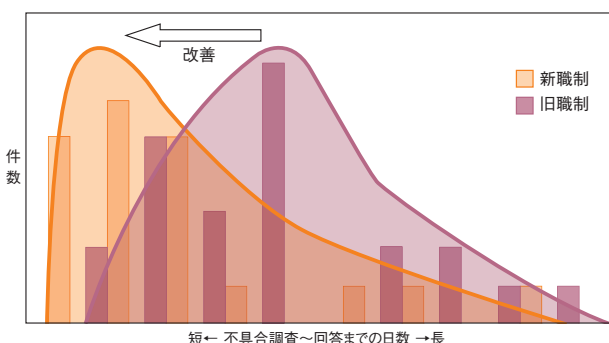
その一環として、お客様・ディーラ間の双方向のコミュニケーションを強化して、お客様のニーズや市場情報を迅速に収集し、当社製品の品質とアフターサービス品質の改善へつなぐと共に、品質に関わる技術情報をお客様やディーラにタイムリーに発信する機能の強化に努めています。

また、2005年半ばに再編された確実かつ迅速なリコール対応・市場措置未処理案件の減少等に効果大であった三菱ふそう品質管理システムをさらに増強するため、新しい品質管理プロセスを構築しました。

私たちは、お客様からいただく品質に関する情報、ご意見やお問い合わせに対して、迅速な情報の収集・処理を行います。そして、重要な品質に関わる情報は確実に社内

に伝達され、問題の解決を迅速に行います。それを実現するために、社内外ネットワークを經由して情報が送受できるシステムを国内外の販売会社や地域販売部門へ拡大展開中です。

さらに、重要な品質に関わる情報はクロスファンクショナルチーム（CFT）で調査・分析され、市場措置の実施要否についても議論され、公正で透明なプロセスが維持されています。



品質月間

11月は品質月間です。三菱ふそうはこの月間を品質改善に、特に基盤固めを中心に取り組みました。更なるグローバル化を背景に、プロセス重視のアプローチを忘れず、より積極的に取り組もうという狙いを込めて、「守りから攻めの品質への転換」をスローガンに掲げ以下のような各行事を展開しました。

◎品質月間関連の掲示

各工場・研究所に「Q旗」を掲揚、また立て看板・ポスター・標語を掲示し、品質に対する職場意欲の高揚を図りました。

◎品質テキストの配布

品質月間テキストを各職場に配布し、他社での取り組み内容・成果を紹介しました。

◎ふそう品質フォーラム2007開催（11月16日）

- ・長谷川前品質保証本部長講話「品質について考える」
- ・前販売部門長講演「お客様から見たふそうの品質」
- ・外部講師講演「今、何故プロセスアプローチなのか」
- ・品質工学適用事例紹介



ふそう品質フォーラム

品質向上

FPD (Fuso Product Development)



◎FPDの概要

三菱ふそうはFPDという商品開発プロセスを使用した製品作りを行っています。

これは従来のFUSOクオリティチェックゲート (QCG) に対し、ダイムラー社の商用車部門のクオリティゲート (CVDS) のコンセプトを取り入れてプロセスを見直したものです。FPDには、品質重視の考えから、新たなクオリティゲートが追加されると同時に、ゲートを通過するための基準や各ゲートの成果物が明確化されています。

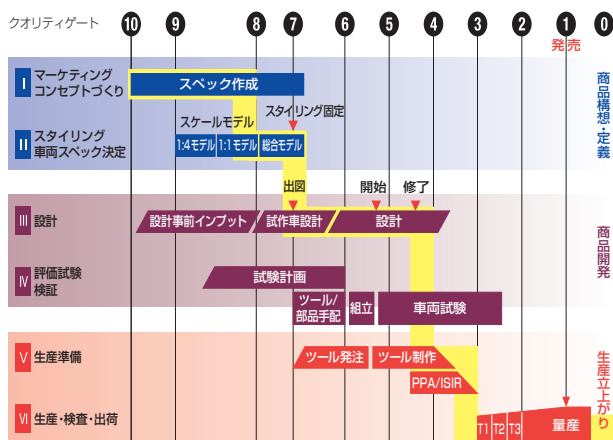
◎FPDのプロセス

FPDには車両プロセス (QG10からQG0) とパワートレインプロセス (QG P8からQG P1) の2つのプロセスがあります。これにより、

◇異なる要件/内容を考慮し、商品開発プロセス全体の複雑性を低減させること

◇車両開発の時期を待たずに、パワートレインのプラットフォームをグローバルに統合化することが可能となります。2つのプロセスの主な同期点を決定し、プロセスを統合させることが重要なポイントです。

FPD (Fuso Product Development) プロセス



開発プロセス全体をゲート10から0迄のクオリティゲートにより区分する

◎FPD導入のメリット

(1) フロントローディングによる商品開発の効率化

フロントローディングとは「仕事の前倒し」という意味で、クロスファンクショナルな取り組みにより早期にお客様

の視点に立った車両に対する市場要望を把握し、それをコンポーネントの仕様要件にまで落とし込むプロセスを意味します。これにより、スペック最終化以降の設計変更作業を最小限に抑え、商品開発効率化を図ることができます。

(2) クオリティゲート/プロセス管理によるプロセス品質の確保

◇明確なプロセスと評価基準の定義

FPDでは各クオリティゲートを通過する必要条件として、成果物が明確に定義されており、各プロセスで何をしなくてはならないかを正確に把握できます。これにより、ふそうの全てのプロジェクトにおいて同じプロセス定義に従った運用が可能です。

◇プロセスの透明性の確保による課題への早期対応

ふそうプロダクトコミッティー (FPC) が商品プロジェクトのクオリティゲート通過判定に関する責任を担っており、ここでクオリティゲートに関するあらゆる説明、確認が行われます。また、課題への対応もいち早く実行されます。

◎FPDは更なる発展を目指して次なるステージへ

現在、ダイムラー・トラック部門のグローバルスタンダードであるCVDS (Commercial Vehicle Development System) のモデルチェンジとして、Version 2.0改善活動に三菱ふそうとしても参画・意見反映を実施し、本年10月を目処にFPDのCVDSへの統合を推進しています。

<CVDS version 2.0の改善コンセプト>

- 1) 車両とパワートレインプロセスモデルの統合とプロセス簡素化。
- 2) グローバルに計画、進捗、報告管理するGlobalツールとして、R-PLANをプロジェクト活動に導入。
- 3) 各地区にCVDSロールスペシャリストを配置し、エンドユーザーとして継続改善を実施する。



CVDS全体説明会

お客様との関わり

お客様相談センター

お客様相談センターは、お客様と直接接する窓口として、お客様からの幅広いご相談(お問合せ・ご意見等)に対応しています。

同センターでは、お客様にご満足頂くため、「迅速・的確・真摯」に対応するよう努めています。また、お客様から寄せられた貴重な声は、社内担当部門へフィードバックし、商品開発・販売・サービス活動におけるCS向上に役立てています。

三菱ふそうお客様相談センター

電話番号：0120-324-230 (全国共通フリーダイヤル)

受付時間：月～金 (除く所定の休日)

9:00～12:00 13:00～17:00

お客様への情報の提供

三菱ふそうは、インターネットホームページを通じて、様々な情報をタイムリーに且つ継続的に提供しています。

商品・技術情報、企業情報、ニュースリリース、環境への取り組み、リコール情報等があり、リコール情報のページでは、お客様のお車が「リコール・改善対策及びサービスキャンペーン」の対象車両に該当するかどうかを自動検索することが出来ます。



三菱ふそうホームページ
(<http://www.mitsubishi-fuso.com/>)

「ふそう耳より情報」の発行

2005年6月から、お客様が安心・安全にお車をお使いいただくために、車両整備や故障の予防策、不正改造防止に関する知識などを盛り込んだ「ふそう耳より情報」を発行しています。



三菱ふそう耳より情報

人にやさしい製品の普及

低床バス

近年、身体障害者の方々の社会参画や高齢化の進行への対応といったニーズによって各自動車メーカーから「福祉車両」と呼ばれる車が続々と発売されています。中でも交通バリアフリー法に代表される公共交通のニーズは一層高まっています。三菱ふそうは1997年に国内初の大型低床バスを「ノンステップバス」として発売したのを皮切りに、標準仕様ノンステップバス認定制度への適合と低床バスの普及に努めてきました。

また2008年2月、当社はメルセデス・ベンツ製ノンステップバス「シターロG」を日本の法規に合わせて改良し、神奈川中央交通(株)に4台納入しました。これらは神奈川県厚木市にある「厚木バスセンター」と「厚木アクスト」を結ぶ路線で「ツインライナー」という名称で運行しています。



ツインライナー (シターロG)

ローザ チェアデッキバージョン

小型バス「ローザ」では車いすのまま乗り込むためのリフトや車いす固定装置等を装備した「チェアデッキバージョン」をラインアップし、福祉施設、病院などの送迎で活躍しています。

2007年5月に行われた「三菱ダイヤモンドカップゴルフ2007」では、チャリティ基金により同車が大洗町役場に寄贈されました。



ローザ チェアデッキバージョン

エアロQueen (参考出品車)

2007年10～11月に開催された第40回東京モーターショーでは同じくリフトや車いす固定装置を装備した大型観光バス「エアロQueen」を参考出品しました。



エアロQueen (東京モーターショー2007参考出品車)

従業員との関わり

社会的変化への対応・取り組み状況 ～雇用等に関する方針

三菱ふそうは、ダイムラー社との協業が進む中、よりグローバルな視点でのビジネスを展開しており、積極果敢に行動できるパワーのある人材を求めています。

採用・人材配置にあたっては、性別によらない能力のある人材の採用・登用を行っており、男女雇用機会均等法の趣旨を実践しています。

また、女性が働きやすい職場づくりを目指し、育児休業・育児勤務制度の設定、福利厚生制度「FUSOウェルフェアプラン」の導入により働く女性の育児を支援しています。また、三菱ふそうは従来からあったシニア制度を改定し、高年齢者雇用安定法の改正に対応した「エイジアソシエイト制度（定年退職者再雇用制度）」を導入し、豊富な知識を有する方の活躍の場やモノづくりの伝統を次の世代に受け継ぐ仕組み、働きやすい環境づくりに力を入れています。

人事制度

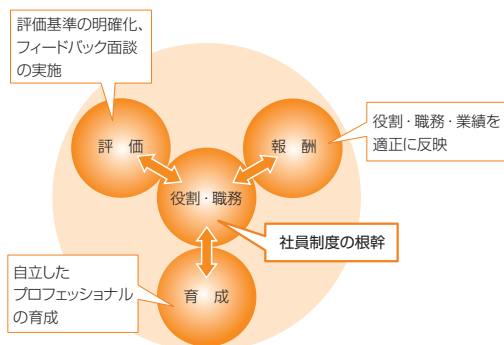
◎社員制度のポイント

役割・職務を中心に、評価・報酬・育成それぞれが密接に関係し、機能します。例えば、評価は報酬を決定するだけでなく、人材育成施策や役割・職務の変更を決定する際のペースとなります。

◎社員制度の運用方針

人事制度は「上司と部下が積極的に対話し、考え、実践し、成功体験を積むことで、互いに成長していく」ための仕組みです。PDCAのサイクルを機能させ、また、適切なコミュニケーション（特にフィードバック）を行うことが、個人の成長、ひいては企業の成長の原動力となります。

新人事制度



◎旧販売会社の人事制度統合

2006年に統合した26社のふそう販売会社の人事制度と三菱ふそうの人事制度を、前述の社員制度の考え方を生かしながら2008年1月1日に統合しました。

◎退職金・年金制度の統合

税制適格年金法制の改訂を受け三菱ふそうの退職金・年金制度の見直しを行いました。同時に旧ふそう販売会社の退職金・年金制度を2008年1月1日に統合しました。新しい退職金・年金制度は、確定拠出年金制度と確定給付型企業退職年金（キャッシュバランスプラン）を組み合わせた制度となりました。

制度開始に当たっては、全社員を対象とした説明会を延べ400回以上実施しました。

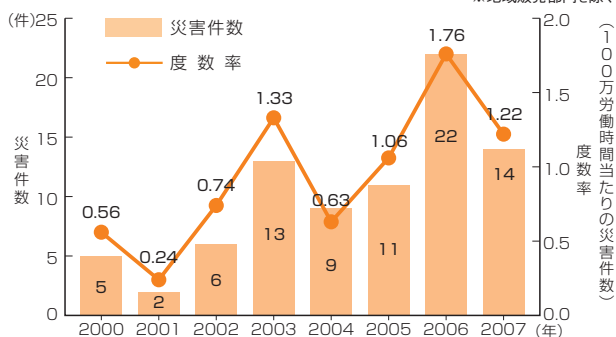
安全・衛生

(1) 労働安全

三菱ふそうは2008年安全衛生管理方針に基づき、「社員の安全と健康の確保は全てに優先する」を基本理念に、前年の結果も踏まえた安全衛生活動計画を策定し、安全衛生意識の更なる浸透を図り安全で快適な職場づくりを継続的に推進しています。

<①2007年に発生した災害要因を分析した上で、実施すべき事は何かの明確化><②年間を通して安全意識を維持させるための教育および現場での注意喚起><③管理監督者の職場状況の変化に対応した先手管理と安全が先取りできる職場自主活動>この3点を確実に実施しています。過去の災害は、作業者の経験不足等による不安全行動等が主原因と思われる、この結果を受け止め、経験6ヶ月未満の作業者に対する安全再教育による不安全行動の排除、中堅社員に対する復帰手順の教育などを強力に推進しています。

災害発生状況



(2) 交通安全

社員の交通事故防止や意識の向上を目指し、通勤時の車両・自転車運転者、歩行者への交通安全・マナーの指導を実施しています。また、社員教育の一環として全国交通安全週間に合わせ、警察署の交通課課長による講演や近隣交差点での交通安全指導を実施し、意識の向上を図っています。

(3) リスクマネジメントシステム確立

三菱ふそうは「リスクアセスメント」の手法を活用したマネジメントを実施しています。これは、作業場における危険性または有害性を特定し、それによる労働災害（健康障害を含む）の重篤度（災害の程度）とその災害が発生する可能性を組み合わせることでリスクを見積り、そのリスクの大きさに基づいて対策の優先度を決めた上で、リスクの除去または低減の措置を検討し、その結果を記録する一連の手法です。

現在は、新設設備や新材料の導入時にリスクアセスメントを行うのはもちろんのこと、「さわやか安全メモ」を活用して現場をはじめとした全般的なリスクの洗い出しを計画的に推進しています。

2007年には、「さわやか安全メモ」25,622件が提出されました。これらを有効活用し、今後も順次改善を行っていく予定です。

(4) アスベスト(石綿)への取り組み

三菱ふそうは、アスベストを含む建造物の調査結果を踏まえ、アスベスト除去工事を実施しています。また、過去のアスベスト取り扱い作業についても、さかのぼって調査を実施し、必要な措置を行っております。

社内コミュニケーション

三菱ふそうは以下のような各種の社内コミュニケーションを実施しています。全社員または各階層が必要な情報を正確かつタイムリーに共有し、問題意識を共有することは、会社経営上、重要と考えています。

◎イントラネット

2007年12月、当社が従来使用してきたイントラネット

"Business Station"をダイムラーのイントラネット"Employee Portal"に統合しました。

世界のダイムラー・トラック部門内に独立して存在していた25のイント



Employee Portal トップページ

ラネットを統合することにより、従来の情報に加え、ダイムラー社およびダイムラー・トラック部門全体のニュース等の情報も閲覧できるようになり、世界中で情報を共有できるようになりました。

◎社内報

"FUSO TIMES"を毎月発行し、全社員に配布しています。

経営トップのインタビューから、各種イベントや各部門での出来事まで、幅広い情報を提供しています。



FUSO TIMES

◎社員相談室

社内外のヘルプラインからなる体制を構築し、内部通報者の保護を社内標準で規定した上で、コンプライアンス強化、自浄プロセスの向上などを図っています。(P.40参照)

ELA (Environmental Leadership Award)

「ELA」は、ダイムラー社が、環境保全活動への社員の注目度やモチベーションの向上を目的として、<①製品開発分野><②生産分野><③その他の分野>において、環境保全に貢献したチームを表彰するものです。2007年11月、シュツットガルトでELAの表彰式が開催されました。合計135チームの応募があり、その中からキャンターエコハイブリッドチームを含む10組が同表彰式に招待され、表彰されました。



ELA表彰式

家族工場見学会

社員のご家族の方々に、社員の働く姿や職場環境を知って頂くことを目的に、毎年1回、労働組合主催により家族工場見学会を開催しています。2007年8月24日の川崎工場見学会には約200名、8月22日の大江工場見学会には約40名のご家族が参加しました。労組執行委員長の挨拶、工場見学、食堂における昼食、質疑応答が行われました。



川崎工場見学会



大江工場見学会

福祉活動

被災者支援

2007年7月に発生した新潟中越沖地震に被災された地域の復旧作業にお役立ていただくため、三菱ふそうは、刈羽村（かりわむら）と柏崎市に小型トラック「キャンター」を1台ずつ寄贈しました。



品田村長(刈羽村)と江頭会長



若山副市長(柏崎市)と江頭会長

2008年6月に発生した岩手・宮城内陸地震に被災された地域の復旧作業にお役立て頂くため、当社は宮城県・栗原市と岩手県・一関市に小型トラック「キャンター」のダンプ車を1台ずつ寄贈しました。



栗原市への寄贈



一関市への寄贈

世界の子供たちにワクチンを!

三菱ふそうはNPO「Re ライフスタイル」の活動のひとつである題記の活動に賛同し、川崎地区においてペットボトルのキャップを回収しています。社内の各所で収集されたキャップは樹脂メーカーに引き取られ、その対価で、「認定NPO世界の子供にワクチンを日本委員会（JCV）」を通じて世界の子供たちにワクチンが届けられます。



社内に設置された回収箱



活動推進ポスター

その他の社会活動

スポーツ活動

◎野球

三菱ふそうは、当社川崎硬式野球部の活動を、2008年11月の社会人野球日本選手権大会をもって休止します。同野球部は、1957年に三菱重工川崎硬式野球部として創部以来51年間、川崎市をホームグラウンドにして活動してきました。その間、都市対抗野球大会出場18回（うち優勝3回、準優勝1回）、日本選手権大会出場8回（うち優勝1回）という輝かしい成績を収めました。公式戦以外の活動としても、地元の小学生を対象に少年野球教室等を開催するなど、地域社会に積極的な貢献を果たしました。



三菱ふそう川崎硬式野球部（2008年6月現在）

◎サッカー

三菱ふそうはJリーグ「浦和レッドダイヤモンズ」のユニフォームスポンサーを務めています。2007年にはAFCチャンピオンズリーグ（ACL）2007で優勝するとともに、FIFAクラブワールドカップ（CWC）ジャパン2007に日本チームとして初出場して見事3位に輝きました。



浦和レッドダイヤモンズ

◎三浦国際マラソン

三菱ふそうは、スポーツを通じて健康増進を図ることを主目的として、1989年から毎年、三浦国際市民マラソンへの特別協賛を行っています。



三浦国際市民マラソン

日独文化交流

◎たけのこプログラム (日独高校生交流)

同プログラムは、日独両国の高校生がお互いの文化への関心を高め、両国の青少年の交流が深まることを目的に、日独両国の高校生を対象に、渡航費用の一部を支援するものです。ダイムラー社と三菱ふそうは共同スポンサーになって「たけのこ基金」を設立し、財団法人「ベルリン日独センター」の日独高校生交流事業の支援をしています。当社は2005年から3年間、10万ユーロ/年の資金を援助しました。

◇獨協埼玉高校がプログラムに参加

姉妹校である獨協埼玉高校とシュタインバート高校は、両校の生徒がお互いの国でホームステイし、学校生活、文化、言語学習を体験しあう交流プログラムを実施しました。2007年6月にドイツ側の生徒20名が来日したのに続き、2008年3~4月には獨協高校の生徒19名がドイツに派遣されました。

獨協高校の生徒たちは、ドイツでの生活を満喫すると同時に、友人を作ったり、文化の違いを学んだり貴重な体験を得ることができました。



歴史ある街ツォーンスの見学

◎「日独協会」の方々が三菱ふそうの工場を見学

2008年4月、財団法人「日独協会」の若手会員の方々27名が当社の川崎工場を見学しました。これは、日本の若い層にドイツへの興味を深めてもらうことを目的に行われた友好プログラムの一環として、ダイムラーの一員である当社の見学会が開催されたものです。工場見学のほか、プレゼンテーションやキャンター エコ ハイブリッドの見学が行われ、好評でした。



川崎工場を訪れた日独協会の皆様

送迎バスによる美術館見学支援

三菱ふそうは、子供たちの感性を育てる文化活動支援として、小学生たちが美術館を見学する際に送迎バスを提供する「ふそうアートバス」プロジェクトを2006年から実施しています。2007年も前年に続き、東京都現代美術館、東京都写真美術館などを見学する際の送迎バスを提供しました。このプロジェクトは、子供たち・学校・美術館から毎回ご好評をいただいています。



見学者送迎用バス

スケッチコンクール

三菱ふそうは夏の恒例行事として、全国の幼稚園児・保育園児を対象とした「サマースケッチコンクール」を実施しています。

日ごろ子供たちの回りで働くトラック・バスや、こんな乗り物があったら楽しいと思う未来の乗り物などを、豊かな感性で描いてもらおうと企画されたものです。

2007年は合計672園から51,658点の応募作品を収集しました。現代画壇の第一人者として活躍中の山本貞先生を委員長とした審査員による審査の結果、最優秀賞3名、優秀賞5名、準優秀賞10名、そして佳作70名が選出され、賞品が贈呈されました。

また、当社は2007年12月28日~2008年1月6日に、ギャラリー東京映像(東京都港区)において、入賞した作品88点の展示会を開催しました。



最優秀賞3作品

地域社会への貢献

三菱ふそうは、下記の活動を通して地域の方々や団体との交流・融和を目指しています。

項目	内容
工場見学会	・地域の方々、団体、社員の家族等を対象に実施 2007年度見学者数 約5,500人
学校への協力	・市内小学生チーム対象の野球大会を開催 ・社会科カリキュラムと連動した工場見学プログラムの実施
会社施設の開放	・体育館、グラウンドを地域に開放
地元自治会への加入	・祭り、フェスティバル等各種イベントへの協賛
環境関連団体等への参加や寄附	・市民共同おひさま発電所への寄附 ・地域社会活動に対する支援
地域の清掃・緑化	・工場周辺の清掃活動 ・川崎市主催緑化活動「花と緑のある街づくり」への参加
川崎市等への協力	・かわさき地球温暖化対策推進協議会への参加 ・かわさきエコドライブ推進協議会への参加 ・六大都市自動車技術評価委員会への協力



小学生工場見学



川崎工場周辺の清掃活動

少年野球大会

2007年11月、三菱ふそう主催による少年野球大会を開催しました。本大会は近隣関係者からの強い要望によりスタートし、今回で25回目となります。川崎市中原区の少年野球チーム16チーム、約300名が参加し、白熱したゲームが展開されました。



開会式の様子



試合風景

新任マネージャー「ソーシャルワーク研修」

三菱ふそうは2007年11月～12月、新任マネージャー研修の集大成として、ソーシャルワークを実施しました。2005年度から始まった同研修は、マネジメントとしての自覚を持った新任マネージャーが、企業と社会との共生を考え、自分たちで社会貢献活動を企画・実行するものです。今回は31名の新任マネージャーが2つのグループに分かれて次のプロジェクトを実施しました。

(1) チーム「1st Penguins」

北加瀬子供文化センターの緑化・環境啓発活動
(敷地内の緑化整備、環境教室、花苗植え、種まき実習等)



チーム「1st Penguins」



花苗植えの様子

(2) チーム「TOGETHER」

平間公園リフレッシュ作戦 ～心地よさ共有のために～
(平間公園の落葉拾い、砂場整備等の清掃活動)



チーム「TOGETHER」



公園内を清掃するメンバー

作業長会「社会貢献活動」

2007年10月、三菱ふそうの作業長会は自らの発案により、中原区内のカーブミラー点検・清掃および周辺のゴミ拾いを実施しました。2日間で延べ55名の作業長が参加し、カーブミラー798本の清掃を行いました。



カーブミラー清掃活動

川崎市との連携

三菱ふそうは2007年1月、本社を川崎市に移転しました。これにより、従来から川崎市にある川崎工場とともに、川崎市の企業市民として地域社会に溶け込み、地域とともに発展していくことを決意しました。具体的には次のような活動を行っています。

◎「かわさきエコドライブ宣言」に参加

2007年2月、川崎市が主催する「エコドライブ推進協議会」が発足し、三菱ふそうも加入しました。また、3月に同市は「かわさきエコドライブ宣言」を行い、当社もこれに登録されました。当社は社有車等にステッカーを貼ったり、同市が主催するエコドライブの講演に講師を派遣したりして、エコドライブを推進しています。



部品輸送車



川崎市主催の講習会で講演をする
当社の惣田マネージャー

◎かわさき地球温暖化対策推進協議会

三菱ふそうは従来より、同協議会に委員として参加しています。温暖化対策に関し、一事業者としての責務を果たすとともに、情報の交換やイベント等への参加を通して、関連メンバーとの連携を図っています。

2008年3月には、「市民共同おひさま発電所」プロジェクトにわずかながら寄附を行いました。

◎かわさき新エネルギー・環境展

2008年2月、川崎ラ・チッタテラ内特設会場にて同環境展が開催され、三菱ふそうはキャンター エコハイブリッドを出展しました。2日間にわたり、買い物帰りや家族連れなど多くの市民の方々が来場し、当社のキャンター エコハイブリッドについて質問されるなど、環境問題への意識の高さがうかがわれました。



ハイブリッド技術について熱心に質問される砂田副市長(中)

◎六大都市自動車技術評価委員会

2008年2月、三菱ふそう川崎工場にて同委員会をお招きし、見学および講演会を開催しました。

同委員会は、東京都・川崎市・横浜市・名古屋市・大阪市・神戸市で構成され、自動車公害低減技術に関する調査・研究・情報交換を行い、その対策の推進を図るものです。今回、川崎市が幹事となり、当社での見学・講演が開催されました。当日は、当社の将来排出ガス低減技術や低公害車に関する講演・見学・試乗会が開催されるとともに、非常に活発な質疑応答や意見交換が行われ、盛況のうちにプログラムが終了しました。



講演風景



委員会の皆様

浦和レッズ ハートフルスクール in インドネシア

2007年4月28,29日、浦和レッズはインドネシアにおいて、インドネシア人小学生や現地在住日本人小学生を対象にサッカー教室を開催し、三菱ふそうはこれに協賛しました。



レッズ ハートフルスクール

省エネカーの走行会 (テストコースの開放)

三菱ふそう喜連川研究所では、9年前から、クラブ活動で省エネカーを製作している県内の高校に高速周回路を開放してきました。2008年4月、第1回の「省エネカー走行会」が開催され、矢板高校、宇都宮工業高校、今市工業高校の生徒40名が参加し、バッテリーカー 6台の走行が行われました。



喜連川研究所での省エネカー走行会